



数据加载失败，请稍后重试！

# 吴桥杂技与艺术研究

吳橋雜技と芸術研究

WUQIAO ZAJI YU YISHU YANJIU

【日】木之下章子 著



《暨南外语博士文库》

主 编 宫 齐

副主编 /

程 倩  
蒲若茜

廖开洪  
王 琢

  世界图书出版公司  
广州·上海·西安·北京

图书在版编目(CIP)数据

吴桥杂技与艺术研究:日文/(日)木之下章子著.  
—广州:世界图书出版广东有限公司,2019.1  
ISBN 978-7-5192-5835-1

I.①吴… II.①木… III.①杂技-研究-吴桥县-  
日语 IV.①J828

中国版本图书馆CIP数据核字(2019)第004555号

---

书 名: 吴桥杂技与艺术研究  
WUQIAO ZAJI YU YISHU YANJIU

著 者: 木之下章子

责任编辑: 程 静

装帧设计: 苏 婷

责任技编: 刘上锦

出版发行: 世界图书出版广东有限公司

地 址: 广州市新港西路大江冲25号

邮 编: 510300

电 话: 020-84451969 84453623 84184026 84459579

网 址: <http://www.gdst.com.cn>

邮 箱: [wpc\\_gdst@163.com](mailto:wpc_gdst@163.com)

经 销: 各地新华书店

印 刷: 广州市怡升印刷有限公司

开 本: 787mm×1092mm 1/32

印 张: 9.125

字 数: 280千字

版 次: 2019年3月第1版 2019年3月第1次印刷

国际书号: ISBN 978-7-5192-5835-1

定 价: 45.00元

---

版权所有 翻版必究

咨询、投稿: 020-84451258 [gdstchj@126.com](mailto:gdstchj@126.com)

本书系暨南大学广东高校女性发展研究专项课题“中日高校女性求职现状对比研究（2015年）”研究成果（项目编号：JDNFY006）。

本书获得“東華教育文化交流財団研究助成奨学金（2005-2006）”。

# 总 序

素有“华侨最高学府”之称的暨南大学创办于1906年，是我国第一所由政府创办的华侨高等学府，是国务院侨办、教育部、广东省共建的“211工程”重点综合性大学，也是目前在全国招收港澳台和海外华人华侨学生最多的高校。“暨南”二字出自《尚书·禹贡》篇：“东渐于海，西被于流沙，朔南暨，声教讫于四海。”意即面向南洋，将中华文化远播至五洲四海。暨南大学的前身是1906年清政府创立于南京的暨南学堂。1927年迁至上海，更名为国立暨南大学。抗日战争期间，迁址福建建阳。1946年迁回上海，三年后合并于复旦大学、交通大学等高校。新中国成立后，暨南大学于1958年在广州重建，“文革”期间曾一度停办，1978年复办。1996年6月，暨南大学成为全国面向21世纪重点建设的大学。学校恪守“忠信笃敬”之校训，积极贯彻“面向海外，面向港澳台”的办学方针，建校迄今共培养了来自世界五大洲160多个国家和港澳台地区的各类人才近30余万人。

暨南大学外国语学院的前身是创办于1927年的外国语言文学系，历史上曾有许多著名专家、学者在该系任教，如叶公超、梁实秋、钱钟书、许国璋教授等。1978年复办后，外语系在曾昭科、翁显良两位教授的主持下，教学与科研成绩斐然，1981年外国语言文学系获国家第一批硕士学位授予权，成为暨南大学最早拥有硕士授予权的单位之一。当时的英语语言文学硕士点以文学为主、专长翻译，翁显良、曾昭科、张鸾铃、谭时霖、黄均、黄锡祥教授等一大批优秀学者先

后担任硕士研究生导师，他们治学严谨，成绩卓著，为我们今天的发展奠定了坚实的基础。如今，外国语学院已拥有专任教师 133 人，其中教授 10 人，副教授 46 人，讲师 69 人。教授中有博士生导师 3 人，硕士生导师 39 人。学院教师中获博士学位者近 50 人，在读博士近 20 人。现有英语系、商务英语系、日语系、法语系和大学英语教学部等 5 个教学单位；有英美文学研究所、应用语言学研究所、跨文化及翻译研究所、日本语言文化研究所及外语教学研究所等 5 个研究机构。学院现有外国语言文学硕士学位一级学科授权点一个，有英语语言文学、外国语言学及应用语言学、日语语言文学 3 个二级学科，以及翻译专业硕士（MTI）学位授权点。英语语言文学方向主要为华裔美国文学研究、英美女性文学和后现代文学研究；外国语言学及应用语言学方向以理论语言学、功能语言学和音系学为研究特色；日语语言文学方向侧重现当代日本文学、日中比较文学、日语语言及文化研究；翻译方向从语言学、文学和文化等多个层面探讨翻译理论与实践，突出翻译的实践性。研究生导师大多数具有海外大学或学术机构从事教学、科研、进修的经历。目前，学院教师主持国家社科基金项目 9 项，教育部、广东省社科规划项目数十项。《暨南外语博士文库》系列丛书（以下简称《文库》系列丛书）的编纂，主要基于以下目的：首先，是对近十几年来暨南大学外语学科获得博士学位教师研究成果的梳理和总结；其次，为学院的中、青年外语骨干教师搭建展示团队科研成果的平台，以显示学科发展的集群效应；第三，旨在激励更多的暨南外语学人（特别是青年学子）不断进取，勇攀教学、科研的新高峰，再创新辉煌。《文库》系列丛书主要收录了 2000 年以后我校外语学科博士学位获得者尚未正式出版的博士论文，这些论文均经本人反复修改和校对，再经相关博士生导师的认真审阅和作者本人最终修改后方提交出版社排版付梓。该套丛书涵盖了语言学、外国文学、

文化、翻译及其他相关领域，所涉及的语种包括汉语、英语、日语、法语和西班牙语等。《文库》系列丛书的第一辑 10 部现已出全，第二辑 10 部正在陆续修改、校对和编排中。

《文库》系列丛书是新一代暨南外语学人孜孜不倦，努力拼搏和进取所取得的研究硕果，是他们宁静致远，潜心治学的象征。这些成果代表了暨南外语学科的进步与发展，预示着我们的希望和未来，也是我们献给暨南大学 110 周年校庆和外国语学院建院 90 周年华诞的一份丰厚礼物。《文库》系列丛书的出版分别得到了广东省优势重点学科基金、学校重点学科建设项目和广东省高水平大学建设基金的支持，世界图书出版广东有限公司的编辑在丛书的编辑、审校、设计等方面亦付出了大量心血，在此我们一并表示衷心感谢！

编 者

2016 年 11 月 16 日

## 序 文

日本人にとってなじみのあるよく知られた中国の伝統芸能と言えば、京劇と雑技、武術であろう。スポーツの体操や新体操の分野で中国は世界最高のレベルを誇っているが、それをこれらの伝統芸能と結びつける日本人は少なくない。中国の現代文学を代表する作家老舎は日本でもよく知られた作家の一人であるが、彼はこういった中国の伝統芸能を心から愛し、それを自分の作品の中に好んで登場させ、哀感をこめて描き出した。私は1980年に初めて中国に行ったが、その時は上海で雑技団の公演を鑑賞した。改革開放直後のことで、上海にもまだ高層ビルはなく、劇場の建物も古く時代を感じさせるものだったが、目の前で繰り広げられる数々のすばらしい演技に感動したことは今でもよく覚えている。

今回その雑技について木之下章子氏がまとめた『呉橋雑技芸術研究』が世界図書出版社から出版されることになった。この本の元になったのは、私が個人で編集し出版していた、中国の当代文学を紹介する雑誌『火鍋子』に掲載された連載記事「呉橋雑技芸術研究」で、2009年5月発行の第73号から2013年7月発行の第80号まであしかけ4年にわたり連載された。きっかけは木之下氏が中国の大学院で雑技を研究しているということを知り、日本ではまだ雑技について詳しく紹介・研究したものがなかったので、それではぜひにお願いすることになった。ちょうど中国の急激な経済成長とともに

に雑技を取り巻く状況も大きく変化していく時期で、木之下氏の連載はこれまでの雑技の歴史と共に、今まさに雑技の世界で起きている変化をリアルタイムで伝えてくれる内容となった。

木之下氏によると雑技の研究はこれまで中国でもほとんど手を付けられていなかった分野だという。氏は実際に呉橋をはじめとする様々な雑技団に赴き、また雑技に関わる様々な人々に直接会ってインタビューを行うなど、緻密なフィールドワークを通じて、自分の足で貴重な資料・証言を集めている。雑技は単なる民間の大衆芸能から、国家が保護・育成する芸術へと地位を高め、今はまた経済発展と共に投資の対象となっている。木之下氏の研究はその変化の歴史の貴重な記録となっており、今後の雑技研究の基礎資料となるものである。木之下氏には雑技研究の第一人者としてこれからもより一層研究を深め、更なる成果を上げることが期待している。

木之下氏と私の出逢いは私が大阪芸術大学に勤めていたとき、彼女が私の第二外国語の中国語を履修したことだった。その時にはまさか彼女がここまで中国と深い縁を持つことになるとは思っても寄らなかった。私が中国語を教えたのは単なるきっかけに過ぎないが、こうして彼女が中国で成果を上げ、また先生方や学生達とも仲良くやっている様子を聞くと、本当に誇らしい気持ちでいっぱいである。

今回この本の出版に当たり、手を尽くし助けて下さった暨南大学の先生方・関係者の方々に深く感謝申し上げる次第である。

2017年9月12日  
名古屋経済大学教授  
谷川毅

# 目 录

序 章	1
第一章 雜技芸術と芸人集団をめぐる研究	8
第一節 中国の雜技芸術研究	8
第二節 中国芸人集団の人類学研究	13
第三節 中国の芸術人類学研究	15
第二章 呉橋県における自然環境と歴史	17
第一節 地理的特徴	17
第二節 文化と社会環境	21
第三章 呉橋雜技形成の条件と要因	28
第一節 雜技の発展と宮廷芸人の移動	28
第二節 雜技廟会の形成と消滅	39
第四章 呉橋雜技伝承の変遷	45
第一節 伝統的な雜技の伝承	45
第二節 現在における雜技の伝承と学徒の生活	48
第三節 雜技芸術学校の人材育成と課題	62

<b>第五章 雑技芸人の社会保障と師弟関係</b> .....	66
第一節 芸人集団の組織構成 .....	66
第二節 師弟関係と社会保障 .....	72
第三節 労災と雑技人生.....	77
<b>第六章 各国の人材募集とセカンドキャリア問題</b> .....	84
第一節 中国の福建省雑技団の場合 .....	84
第二節 日本の木下サーカスの場合 .....	90
第三節 カナダのパフォーマー集団シルク・ドウ・ソレイユ の場合 .....	97
第四節 雑技・サーカス芸人の引退後のセカンドキャリア 問題 .....	107
<b>第七章 日本サーカス伝承の変遷</b> .....	113
第一節 中国雑技の影響と日本サーカス発展の足跡.....	113
第二節 日本初のサーカス学校・沢入国際サーカス学校.....	126
第三節 日本のサーカス団の子供たち .....	141
<b>第八章 呉橋雑技芸人の婚姻と家庭</b> .....	162
第一節 雑技芸人の婚姻.....	162
第二節 芸人家族の構成と家庭教育 .....	168
第三節 雑技芸人と土地.....	171
<b>第九章 雑技芸術と市場</b> .....	177
第一節 市場経済が雑技に与えた影響 .....	177
第二節 雑技の公演場所.....	181
第三節 海外投資としての雑技市場 .....	192

第十章 海外サーカス界の呉橋雑技芸人.....	195
第一節 新中国成立以前の海外巡業の足跡.....	195
第二節 日本サーカス・マジックと呉橋雑技芸人.....	201
第三節 呉橋芸人田仕合と中日混合雑技団.....	203
第十一章 雑技芸人と文化政策.....	210
第一節 中国古代の雑技芸人の管理と政策.....	210
第二節 新中国成立後の雑技芸人の管理と政策.....	213
第三節 当代の雑技芸人と文化政策.....	220
終章 国家による無形文化遺産登録への動向.....	227
第一節 ユネスコの無形文化財保護公約への加入.....	227
第二節 雑技芸術保護プロジェクトの模索.....	234
付録1 呉橋国際雑技芸術祭受賞リスト.....	239
付録2 中国国内の雑技学校（2016年現在）.....	253
付録3 中国各省にある雑技芸術団体（2016年現在）... ..	254
付録4 呉橋県民間雑技団体一覧表.....	255
付録5 県級以上の国営雑技団体一覧表 （1950—1993年）.....	257
付録6 呉橋一帯に伝わる各業種の隠語.....	261
付録7 中国呉橋国際芸術節写真資料.....	266
参考文献.....	269

## 序 章

本書は、博士論文『呉橋雑技芸術研究』（中国社会科学院研究生院、二〇〇八年）を基に時新中国文藝雑誌（Current Chinese Literature Magazine）『火鍋子』（ISSN1342-9078）掲載の日本語版として整理、修正を行った後、世界図書出版社より出版するにあたり再度加筆を行った。出版に至るに、中日両国の研究者並びに雑技・サーカス関係者の助言、協力なくして本書の完成は不可能であった。修士課程では、現中国民族大学民族学研究所所長麻国慶教授、博士課程では、中国社会科学院民族学与文化人類学研究所何星亮教授にご指導

を賜った。また、中国雑技家協会中国雑技・魔術研究家傅起鳳氏からは貴重な資料を頂き、呉橋県でのフィールドワークに関しても多大なるご協力を賜った。日本からは、名古屋経済大学谷川毅教授、国際サーカス村協会会長・沢入国際サーカス学校校長西田敬一氏にご指導を賜った。

出版にあたり、現所属単位である暨南大学外国語学院院長宮齋教授をはじめ王琢教授、羅曉

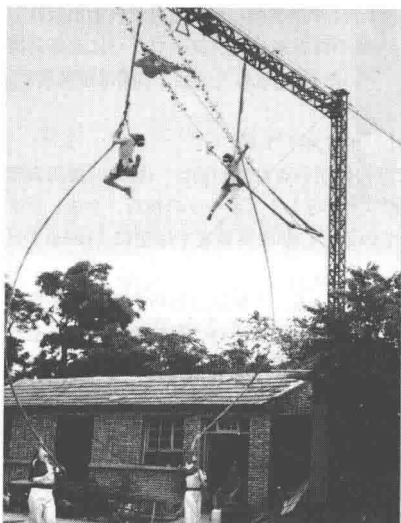


写真 0-1 呉橋県新芸大型馬戲雑技団の練習風景（筆者撮影）

紅教授、王宝峰准教授、世界図書出版社程静氏他、多くの研究者や関係者のご指導、ご厚情を賜った。中国に学び、尊敬する中国人研究者と共に邁進する日々に、この上ない幸運を噛みしめ謝意をここに記す。

本書では、「雑技の故郷」<sup>①</sup>と呼ばれる中国河北省呉橋県にある「呉橋雑技」の変遷を紹介しながら、その役割や国家における文化政策から民族文化発展戦略の考察を試みる。具体的には国家の政策により雑技芸人たちの社会的地位、その役割や雑技の伝承方法、延いては雑技芸人たちの生活がどのように変遷してきたのかに着目する。国家の政策や地方政府、そして市場経済の影響を受けた民族、民間芸術はどのような方向に向かい発展するのか、その問題点と展望を検証する。

人類最古の芸術のひとつであるといわれる雑技芸術<sup>②</sup>は、民間で

① 「雑技の故郷」については、「天下雑技第一郷」（李敬義編、河北省科学技術出版社、1993年）一頁参照。これに拠ると、50年代初頭、当時の周恩来首相がヨーロッパに友好訪問を行った時、各地で呉橋出身の雑技芸人に遭遇した。驚いた周首相は「なんと、呉橋は真正正銘、雑技の故郷だ。」このように称賛したと言われている。

② 边发吉、周大明「雑技概論」北京大学出版社、2007年、1頁。

「雑技」という言葉は「漢書・武帝記」の中で最初に用いられている。一般的に英語表記では「acrobatics」と訳されているが、これは中国語の「技巧」（スポーツの技巧、手法、テクニク）と同じ意味であり、人体の技巧を強調している。しかし英語訳では主に「circus」と訳されることが多くなっている。

「雑技」の定義については、以下のように定義されている。「雑技は技巧を用いた表現手段で演ずる芸術である。一般的に人体の技巧を用い、魔術、猛獣使い、道化等を基本とし、人体の特殊な技能を結集させ人や物を操り、人と動物などを和諧させる芸術的特性と審美性を表現する。非常に高い難度、スリル感、精巧、奇異的、ファンタステック等が基本となる。」同上、15頁。

ちなみに「広辞苑」（第5版）によれば、「①雑多な技芸。②民間で行われる技芸。③中国で奇術、軽業の類を演ずるもの。曲技、雑戯。」とあるが、これを見る限り大衆芸能としての捉え方が強調されているが、現代中国では一流の芸術としての意味合いが深くなっている。もちろん、春節（旧正月）などの緑日ではこの大衆的な風情を色濃く残すが、今日舞台で見る雑技は一流の芸術としてみられる。それは、入場券の値段にも反映されている。

生まれ大衆によって育まれてきた。むろん歴代の皇帝に仕える宮廷芸人も少数存在するが、その大多数は民間へと回帰している。それ故、中国雑技は鮮烈な民族性を反映し且つ高度な芸術性をも備えているといえるであろう。「呉橋雑技」は新中国成立以降、「中国雑技の故郷」として国内外に伝播され、二〇〇六年には国家級無形文化遺産のリストにも正式登録されている。しかしながら歴史、政治など多岐にわたる要因により、これまで「呉橋雑技」や「雑技芸人」に関する研究はほとんど行われてはいない。二〇〇〇年代初頭から、現地の研究者を中心に調査報告会などの活動は見受けられるが、その視点は観光開発に主眼がおかれ、雑技・雑技芸人という芸能（民族民間芸術）に携わる研究はごくわずかであり、新聞記事や地方の雑誌で断片的に紹介されているような現状である。



写真 0-2 呉橋県新芸大型馬戲雑技団の練習風景最年少3歳の雑技学徒の演技（筆者撮影）

同じ芸能として位置づけられる「京劇」は早期から盛んに研究が行われ比較的高い関心が寄せられてきたが、雑技研究に関心を寄せられることはこれまでほとんどなかった。後述するように、これは芸人の中でも社会的地位の最も低かったとされる雑技・雑技芸人は、これまで研究対象としてみなされていなかったということなのである。しかし新中国成立後、中央政府や地方政府の文化政策により雑技は「大衆芸能」から「一流の民族民間芸術」へと方向を転換させた。中央政府自らの指導で雑技・魔術家協会が

組織され、学術的、政治的地位の確立を目指すなど、非常に興味深い政策が打ち出されている。そして、近年、国家を挙げてユネスコの無形文化遺産への登録申請や中国文化部や地方の文化庁が各省の雑技を国の無形文化遺産に登録しようとする動向が顕著となっている。

このような文化政策は雑技を、延いては中国の民間文化の発展を今後も牽引することが可能となるのか。雑技芸術家—地方政府—国家の三者が理想とする雑技芸術の発展に果たして矛盾は存在しないのであろうか。これらの問題に加え、近年、雑技を投資対象とする新たな動向が加速化されている。雑技を国家級の無形文化遺産に登録する一方、巨額の投資マネーが流入する中国独自の市場経済において、中国の雑技市場と雑技芸人たちは何処へ向かうのだろうか。これらの問題を詳論し、文化人類学的視点から本研究領域における空白を埋めたいと思う。

以下、本書の構成について略述する。本書は第一章から第十一章までの構成で、第一章では、中国の雑技芸術研究の現状を明らかにし、中国の芸人集団の人類学的研究の意義と可能性に言及する。

第二章では、呉橋県における自然環境と地理を紹介し、文化や社会の特徴を論考する。

第三章では、呉橋雑技の発展と変遷に検証を加える。主に、宮廷芸人の子孫たちが呉橋県に移住後、呉橋雑技が形成された資料を検証し、雑技廟会が形成された過程やその役割を明らかにする。また、現在の呉橋雑技の繁栄は改革開放以来、国家における文化政策と密接な関係が構築されている点にも検証を加える。

第四章では、雑技の伝承方法の変遷を検証し、主に古代、近代、現代の雑技学徒の芸の伝承方法とその生活や社会における身分の

変動を検証する。呉橋雑技芸人の主な芸の伝承方法は「师傅带徒弟」即ち師匠への弟子入りを基本とし、雑技の伝承方式は大きく三つの形式に分かれる。(一)父から子への伝承。(家伝)(二)師匠から弟子への伝承。その多くは養子養女が含まれる点が明らかになる。(三)小規模の雑技班(民間)での伝承。新中国成立後、とくに二十世紀、八十年代以降は海外のサーカス団との交流が活発になるに伴い、これまでの伝統的な雑技教育も見直され科学的な教育へと転換する。こうして、次第に西側のサーカス教育を参考にすようになった。その後、雑技教育の発展を促進させる政策により、教育部が認可した正規の雑技学校で雑技を学ぶという雑技教育の一本化が伝承の主流となる一連の動向を読み解く。

第五章では、芸人集団の社会保障と師弟関係に焦点をあてる。主に芸人組織における役割、社会保障について分析する。伝統社会に生きる芸人たちには厳守しなければならない様々な「しきたり」や「符丁」があり、違反者は厳しく非難され制裁を受ける。新中国成立以前は師匠(親方)との徒弟関係を結び、基本的には従属関係であり、同時に師匠の役割は父親であり弟子はその子どもの役割を担う。成員たちの中には血縁関係のない者が多数存在するが、入門儀式及び弟子入りの契約の成立によって師匠と弟子との間に非血縁関係による家族関係が成立する。これは両者が共に生存する目的のためであり、弟子入りの契約は散見され本書では資料として付け加えた。このような密接な両者の関係が再構築され共同体を形成していく過程を詳論する。

新中国成立後は、政府主導の文化政策により、芸人集団における社会関係に大きな変化が生まれ、従属関係から対等な関係へと移行され互いに協力、団結しあう関係へと転換された過程を詳論する。